

◎初期生育確保のメリハリのあるきめ細かな水管理！
◎この先1か月も気温は高い予報!!

5月7日仙台管区気象台発表の山形県の季節予報では、向こう1か月(5/9~6/8)の気温の高い確率は70%で、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。異常還元(ワキ)が発生しやすくなりますが、こまめな水管理で克服しましょう。

1 移植後のきめ細かな水管理で分けつ促進

○移植後【稲体の保護、新根の発生促進】

・活着するまで水深4~5cm程度の湛水とします。

○活着後【地温を高めるとともに、昼夜の温度較差をつけて分けつの発生促進】

・水深2~3cmの浅水管理とし、日中止水・夜間入水とします。

○強風や低温が続くときは、やや深めの水深(4~5cm程度)としましょう。【苗の保護】

2 土壌の異常還元(ワキ)を予防する水管理で、初期生育を促進

高温・多照の日が続くと土壌の異常還元(ワキ)が強まり、根の生育が阻害され、分けつの発生が抑制されます。今後、高温の予報が発表されていることから、ワキが早まり、強まると想定されます。下記の予防・対策を積極的に行い、生育を促進しましょう。

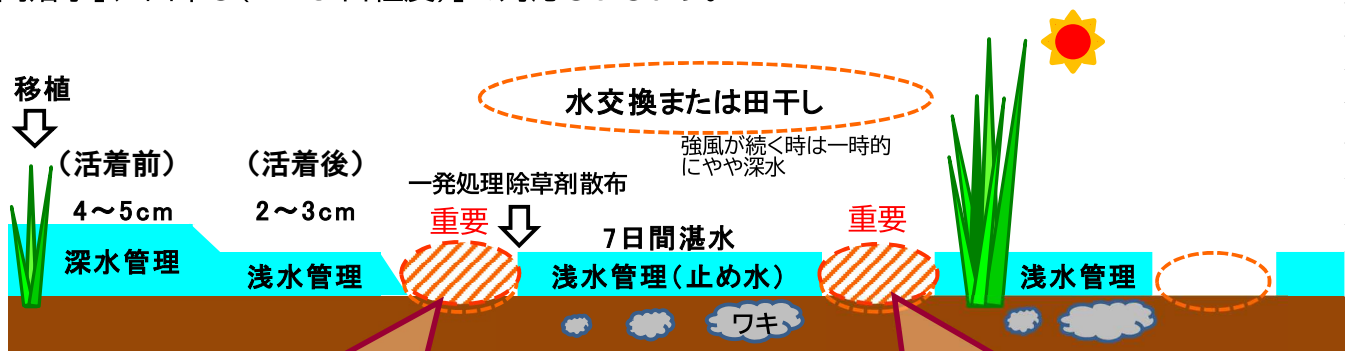
○予防策：一発処理除草剤散布前後の軽い田干しや水交換

一発処理除草剤散布後は、少なくとも7日間湛水状態を保つ必要がありますが、その間にも「ワキ」は進みます。7日間の止め水後は、必ず軽い田干しや水交換を行いましょう。

○分けつ期における対策：「ワキ」の程度に応じた水管理

「ワキ」の悪影響を回避するには、稲に異常が見え始める前の「早めの対策」が重要です。

田んぼに足を踏み込んで気泡の発生状況を確認し(次頁表)、「ワキ」の程度に応じて「水交換」、「夜間落水」、「田干し(2~3日程度)」で対応しましょう。



一発除草剤散布前
土壌還元(ワキ)を見越して
軽い田干し、水交換

図 移植後の水管理

一発除草剤散布後
土壌還元(ワキ)が強まる前に
軽い田干し、夜間落水、水交換

表 土壌還元(ワキ)の程度と対策

ワキの程度の目安	生育への影響	生育初期の対策
水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生がみられる	なし	—
水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	速やかな水交換
水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する	根張り不良	田干し、夜間落水

3 苗の「老化」(葉齢が進みすぎて、葉色が淡くなる)が心配される場合の対応

○苗が老化しそうな場合は、移植の3日程度前までに、箱あたり窒素成分1gを追肥する。

4 効果的な除草剤の施用～ポイントは「散布時期」と「水管理」～

○今年も昨年同様、田植え後の好天によってノビエの生育が早まり、多発することが予想されます。

薬剤毎の使用基準を確認し、使用時期の範囲内で「やや早め」に散布しましょう。

○散布時の水深は、剤型に応じた水深を確保しましょう。

粒剤:3～5cm

ジャンボ剤、フロアブル剤:5cm以上

表層剥離がある場合は、水交換または田干し後に散布する

○除草剤散布後1週間は、水尻を止め、必ず“**止め水**”とします。

減水深が大きく2日以上田面が出る場合、除草剤の処理層を壊さないよう“ゆっくり”入水します。

5 農薬だけに頼らない病害虫対策を

○いもち病対策

・いもち病の初発は取置き苗由来となることが多いので、補植終了後は、取置き苗を速やかに処分しましょう。

○斑点米カメムシ類対策～雑草対策の徹底が基本！～

・農道・畦畔等の除草により、斑点米カメムシ類が生息しにくい環境をつくりましょう。

・アカスジカスミカメはイヌホタルイ等カヤツリグサ科やノビエの穂に産卵するため、水田内にこれらの雑草が繁茂していると多発します。除草剤を適切に使用し除草対策を徹底しましょう。

重要!

やまがた米づくりナビ

旧称:スマートつや姫

URL、QRコードが変わりました

モバイル版：<https://www.agrilook.jp/yamagata-mob/>

※7月から旧URL・QRコードではアクセスできません。

6月末までにブックマーク等の再登録をお願いします。

詳しくは最寄りのJAまたは農業技術普及課へ



STOP! 農作業事故 >>>農作業事故防止運動春季強化期間 4/1～6/10<<<

◎農業機械の点検やトラブル対処の際は必ずエンジンを止めましょう